

令和7年7月26日実施

第59回 秋田県トラックドライバー・コンテスト

学 科 競 技
問 題 用 紙

公益社団法人 秋田県トラック協会

I 交通法規 (50問)

【○×正誤式問題】

- 問1 車を運転するときには、道路交通法など交通規則を守っていれば他の車などに譲る必要はない。
- 問2 走行中は携帯電話を手で保持せずに送信または受信できるハンズフリーのものを除き、通話のために使用したり、画面を注視してはならない。
- 問3 交差点において警察官が両腕を垂直にあげているときは、警察官の身体の正面に対面する交通は赤色の灯火の信号と同じである。
- 問4 黄色の灯火の点滅は、停止位置で一時停止しなければならない。
- 問5  この標識は、標示されている高さを超える車は通行できないことを示している。
- 問6 交通が混雑しているときは、自動車や一般原動機付自転車は路側帯に入って通行することができる。
- 問7 車は、原則として軌道敷内を通行することができない。
- 問8 一方通行の道路を除き、交差点やその付近で緊急自動車が近づいてきたときには左側によって進路をゆずらなければならない。
- 問9 路線バス専用通行帯であっても、小型特殊自動車、原動機付自転車、軽車両は通行することができる。
- 問10 道幅の同じような交差点において、右側から路面電車が来ている時にはその路面電車の通行を妨げてはならない。

問11



この標識は、追越し禁止の標識である。

問12 一般原動機付自転車は、信号機などにより交通整理の行われている交差点で、同一方向に3つ以上の車両通行帯があるときには、二段階右折をしなければならない。

問13 踏切を通過するときは、歩行者や対向車に注意しながら左端を通行する。

問14 上り坂の頂上付近やこう配の急な下り坂では徐行しなければならない。

問15 標識や標示で最高速度が指定されていない道路では、法令で定められた最高速度を超えて自動車を運転してはならない。

問16 けん引するための構造と装置のある大型自動車で、けん引するための構造と装置のある車をけん引するときの一般道路での最高速度は、40キロメートル毎時である。

問17 ブレーキをかけるときは、最初からできるだけ強くかけるようにする。

問18 横断歩道に近づいたとき、横断する歩行者がいるかいないかあきらかでないときは、徐行して、進まなければならない。

問19 安全地帯のそばを通るときは、歩行者がいてもいなくても徐行しなければならない。

問20



この標識は、車線数減少であることを示している。



問21 白や黄のつえを持った人が歩いている時には一時停止か徐行をしなければならない。

問22 交差点を右折するときは、右折しようとする地点の40メートル手前から合図をしなければならない。

問23 前車の発進をうながすために警音器を使用した。

問24



この標識は、近くに学校・幼稚園・保育所などあることを示している。

問25 後退するときは、合図をしなくてもよい。

問26 警笛区間の標識がある区間内では、警音器を鳴らし続けなければならない。

問27 車両横断禁止の標識がある道路では、道路の右側にある車庫などに入るための右折をしてはならないが、左側にある車庫などに入るための左折ならしてもよい。

問28 追い越しをするときは、前車が右折するため道路の中央に寄っている場合のほかは、前車の右側を通行する。

問29 一般原動機付自転車を追い越そうとしている普通自動車を追い越すのは、二重追越しにはならない。

問30



この標示は安全地帯であることを示している。

問31 道路の曲がり角付近では、見通しが悪いときは追い越しが禁止されているが、見通しがよく安全が確認できるときは禁止されていない。

問32 大型免許を受けていれば、大型自動車、中型自動車、準中型自動車、普通自動車、大型特殊自動車、小型特殊自動車、一般原動機付自転車を運転することができる。

問33 酒気を帯びていても、血液1ミリリットルにつき0.3ミリグラム又は呼気1リットルにつき0.15ミリグラム未満の基準値である場合は、運転しても違反にはならない。

問34 車両総重量が850キログラムの故障車をけん引するときは、けん引免許は必要ない。

問35 運転免許証等を紛失したときは、警察に届けてあれば、免許証等がなくても運転することができる。

問36 雨の日ブレーキをかけたらスリップしたので、ブレーキのききが悪いと思い、もう一度ブレーキを強くかけた。

問37



この標識のある道路は、大型貨物自動車のみ通行できない。

問38 昼間でも、濃霧などのため30メートル先が見えないような場所を通行するときは、ライトをつけなければならない。

問39 水のたまった路面を高速で走行すると、タイヤが水の層に乗ってすべり出し、ハンドルやブレーキがきかなくなることがあるので注意しなければならない。

問40 火災報知器から5メートル以内の場所は、駐車禁止である。

問41 バス・路面電車の停留所の標示板（標示柱）から10メートル以内の場所はどの時間帯でも駐停車してはならない。

問42 歩行者用路側帯に駐停車するときは、車の左側に歩行者の通行のために0.75メートル以上あけておかなければならない。

- 問43 積載物は自動車の長さ×1.2以下までであるが、自動車の幅も同様に、自動車の幅×1.2以下のものまで積載することができる。
- 問44 貨物自動車に荷物を積んだとき、荷台に荷物の積みおろしのため、必要な最小限度の人を乗せることができる。
- 問45 大型自動車でけん引できる故障車の台数は3台までである。
- 問46 交通事故の現場に居合わせたときは、あまり関わらずに、負傷者の救護などには協力しないほうがよい。
- 問47 高速自動車国道において本線車道が道路の構造上往復の方向別に分離されていない区間での最高速度は一般道路と同じである。
- 問48 高速道路では、登坂車線は本線車道に含まれない。
- 問49 高速自動車国道において、大型貨物自動車は最も左側の車線を通行しなければならない。
- 問50 高速自動車国道における大型貨物自動車の最高速度は100キロメートル毎時である。

II 構造機能（20問）

【○×正誤式問題】

2025.7

- 問51 貨物の運用に供する普通自動車で、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものには、道路運送車両の保安基準により速度抑制装置を備えなければならない。
- 問52 日常点検において、全ての事業用自動車はタイヤのディスク・ホイールの取り付け状態が不良でないかを確認しなければならない。
- 問53 非常点滅表示灯の灯光の色は、赤色でなければならない。
- 問54 番号灯は、白色であり夜間後方20メートルから確認できるものでなければならない。
- 問55 運送事業に使用する自動車の定期点検整備は、6ヶ月ごとに点検し、必要な整備をしなければならない。
- 問56 自動車（二輪自動車及び側車付二輪自動車を除く）のタイヤの残り溝は、1.6ミリメートルが限度である。
- 問57 自動車の排気管は、発散する排気ガス等により自動車登録番号標の数字等の表示を妨げる位置に開口していないこと。
- 問58 「輪荷重」とは、自動車の1個の車輪を通じて路面に加わる鉛直荷重をいう。
- 問59 貨物運送用の普通自動車で車両総重量7トン以上の車には後部反射器に代えて大型後部反射器を備えなければならない。
- 問60 ブレーキペダルを踏み込んでない場合、ブレーキ・バルブからの排気音が正常であるかは、運行時の状態等から判断した適切な時期に行えばよい。
- 問61 車両総重量は最遠軸距と車両全長に応じて定められているが、最遠軸距が7メートル以上の最大総重量は25トン以下である。

- 問62 自動車の継続検査は、自動車検査証の有効期間が満了する日の2カ月前から受けることができる。
- 問63 道路運送車両の保安基準でいう「軸重」とは、自動車の車両中心線に垂直な1メートルの間隔を有する2平行鉛直面間に中心のあるすべての車両の輪荷重の総和をいう。
- 問64 自動車（二輪自動車、側車付二輪自動車及びけん引自動車を除く。）の前面ガラスは、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が80パーセント以上のものであること。
- 問65 日常点検の結果は運行管理者に報告し、運行管理者はその結果に基づいて運行の可否を決定する。
- 問66 事業用貨物自動車の点検整備記録簿の保存期間は、その記載の日から1年間である。
- 問67 道路運送車両の保安基準について、自動車の高さは、空車状態において3.8メートルを超えてはならない。
- 問68 事業用貨物自動車の日常点検において運行前に毎回、駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であるかについて点検しなければならない。
- 問69 停止表示器材は、昼間100メートルの距離からその蛍光を確認できるものでなければならない。
- 問70 方向指示器は、毎分60回以上100回以下の一定の周期で点滅するものであること。

Ⅲ 運転常識（30問）

【○×正誤式問題】

2025.7

- 問71 フェード現象とは、フットブレーキの使い過ぎにより、ブレーキ装置が過熱してブレーキ液の中に気泡ができ、ブレーキがきかなくなる現象をいう。
- 問72 重い荷物を積んでいる場合は、制動距離が短くなる。
- 問73 高速でトンネルに入ると、視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落とすとよい。
- 問74 交通事故が業務中に起きてしまったときには、はじめに勤務先へ連絡をする。
- 問75 深い水たまりを通行するとブレーキドラムに水が入るため、一時的にブレーキのききがよくなる。
- 問76 雪道を運転するときには、わだち（車が通った後に残る車輪の跡）を走行するとすべりにくい。
- 問77 どんなに運転に自信があっても、慣性、摩擦、重力、遠心力などの自然の力を無視することはできない。
- 問78 薄暮時には、早めにライトを点灯し自車の存在を知らせる。
- 問79 オートマチック車は、エンストしてエンジンがかからないときには、チェンジレバーをDに入れ、セルモーターを使って移動することができる。
- 問80 夜間、見通しの悪い交差点やカーブ等の手前では、前照灯を上向きに切り替えるか点滅して、ほかの車や歩行者に自車の交差点等への接近を知らせるとよい。
- 問81 踏切内では、変速せずに発進したときの低速ギアのまま、落輪しないようにやや中央寄りを一気に通過する。

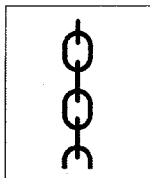
- 問82 大地震が発生したときは、どんな場合であっても避難のために車を使用してはならない。
- 問83 体重60kgの人がアルコールの「1単位」を飲酒すると体内に約2時間アルコールが体内にとどまるといわれている。
- 問84 遠心力の大きさは、カーブの半径が小さいほど小さくなる。
- 問85 深夜を中心とした業務に従事する運転者は、6ヶ月以内に1回健康診断を受診しなければならない。
- 問86 貨物自動車運送事業に従事する運転者の1か月の拘束時間は、労使協定を締結した場合を除き、293時間以内でなければならない。
- 問87 事業用自動車に貨物を積載するときは、偏荷重が生じないように積載するとともに、貨物が運搬中に荷崩れ等により事業用自動車から落下することを防止するため、貨物にロープ又はシートを掛けること等必要な措置を講ずること。
- 問88 高速道路で、誤って本線車道などに進入し、逆走してくる車がいることがあるので、道路情報板などの情報に注意して走行する。
- 問89 運転者は、運行指示書の作成を要する運行の途中において、運行の経路並びに主な経過地における発車及び到着の日時に変更が生じた場合には、営業所の運行指示書の写しをもって、運転者が携行している運行指示書への当該変更内容の記載を省略することができる。
- 問90 片側が転落のおそれのあるがけになっている道路では、がけと反対側（山側）の車が一時停止をして道をゆずる。
- 問91 1日の休息期間は、勤務終了後、継続して9時間以上与えるよう努めることとし、継続6時間を下回ってはならない。
- 問92 改善基準告示における1日の拘束時間は、原則13時間以内であり、これを延長する場合であっても、上限は15時間である。

問93 乗務前及び乗務後の点呼のいずれも対面で行うことができない乗務を行う運転者に対しては、当該点呼のほかに、乗務の途中において、少なくとも1回電話その他の方法により点呼を行わなければならない。

問94 夜間は速度感がにぶり、速度が遅くなりやすい。

問95 運転者が一の運行における最初の勤務を開始してから最後の勤務を終了するまでの時間（「自動車運転時間等の運転時間の改善のための基準」に定める自動車運転者がフェリーに乗船する場合における休息期間を除く。）は、140時間を超えてはならない。

問96



この荷扱い指示マークは、吊り位置を示している。

問97 改善基準告示に定める連続運転時間に関して、下記の運転時間は改善基準告示には違反していない。

運転時間3時間	休憩時間25分	運転時間2時間	休憩時間5分
---------	---------	---------	--------

問98 対向車と正面衝突のおそれがあり、道路外に危険がないときには、道路外に出て衝突を避けたほうがよい。

問99 貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の休日労働は、2週間に1回を超えず、拘束時間及び最大拘束時間の限度も超えないものとする。

問100 車が衝突したときの衝撃力は、速度には関係あるが、重さは関係ない。